

「海に関する国民意識調査 2012 概要」

掲載誌・掲載年月：教育新聞 1207

日本海事センター企画研究部

研究員 野村撰雄

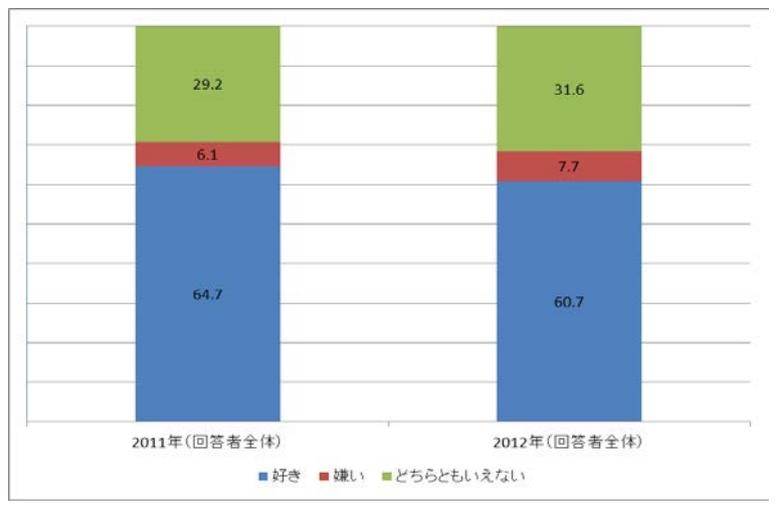
(公財) 日本海事センターは、「海の月間」に合わせて「海に関する国民意識調査」を行っている。5 回目となる今年の調査結果のうち、特に学校教育の観点から注目される 10 代の意識の特徴を簡潔に紹介する。当調査は、インターネットを通じて行い、全国の 15 歳から 69 歳まで 1,000 名 (男性 504 名、女性 496 名) の回答を得た。

海は好き？

当調査の第一問「あなたは海が好きですか」は、「好き」「嫌い」「どちらともいえない」の三択で答えてもらうもの。

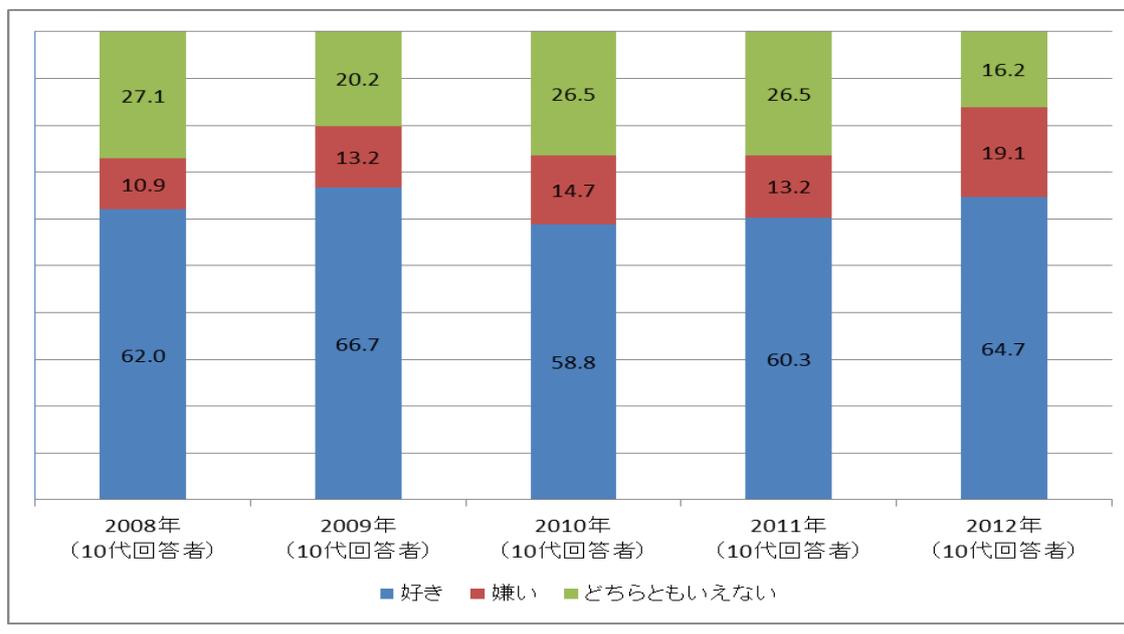
結果は、回答者全体で「好き」が 60.7%、「嫌い」が 7.7%、「どちらともいえない」が 31.6%。過去 4 回の調査結果と比べると、「好き」が最も低く、「嫌い」と「どちらともいえない」とが最も高い回答率となった (図 1 参照)。

【図 1：海に対する好意度】



10 代の回答者について見ると、「好き」が 64.7%、「嫌い」が 19.1%、「どちらともいえない」が 16.2%。10 代の回答者の回答内容には年によって変動が大きいように見られるが、昨年と比べ、「好き」が 4.4 ポイント、「嫌い」が 5.9 ポイント増加しており、「好き」と「嫌い」とに二極化している (図 2 参照)。

【図2：10代回答者の海に対する好意度】



海洋に関する教育体験は？

ここ4、5年で回答者本人又はその家族が体験したことのある海洋に関する教育についてきいたところ、体験があるとの回答は、回答者全体の20.8%で、10代の回答者について見ると32.4%。体験したことのある教育は、「体験乗船」(9.2%)が最も多く、以下、「海洋施設や船の見学会」(8.6%)、「学校での授業」(6.1%)、「海に関する仕事をしている人による講演・講義」(3.5%)、「海洋教室」(3.4%)、その他(0.8%)。

10代の回答者について見ると、「学校での授業」(19.1%)が最も多く、「体験乗船」(13.2%)、「海洋施設や船の見学会」(10.3%)、「海に関する仕事をしている人による講演・講義」(5.9%)、「海洋教室」(4.4%)、「その他」(0%)。

10代については、学校など団体的な活動における教育体験の重要性が見て取れる。

海運は大事？

日本にとっての海運の重要性をたずねたところ、回答者全体で「重要だと思う」は、回答者全体で83.4%。

10代の回答者について見ると、「重要だと思う」が76.5%と20代(70.3%)に次いで低いが、30代(80.3%)、40代(80.4%)、50代(91.1%)、60代(94.6%)と世代を追って重要性の認識に高まりが見られる。

海運について知ってる？

10代の回答者については、ソマリアの海賊については認知度が67.6%とかなり高いが、日本の貿易量(重量ベース)のうち海運が担っている割合、船員や海上保安官などの仕事内容、日本籍船の数など日本海運の現状については、認知度が極めて低い。